

景 気 動 向 調 査

(第 183 回)

2016 年 10 月 ~ 12 月 期 実 績

2017 年 1 月 ~ 3 月 期 予 測

株 式 会 社 北 日 本 銀 行

経 営 企 画 部

目 次

調査要領	1
概 況	2
1．県内景況感について	4
2．業況について		
(1) 売上高または出荷高	5
(2) 仕入高または生産高	6
(3) 在 庫	7
(4) 収 益	8
(5) 販売価格・仕入価格	9
3．設備投資の動向について		
(1) 設備投資の実施状況	10
(2) 設備投資の目的	11
4．資金繰り状況について		
(1) 資金繰り状況	12
(2) 現金・預金	13
(3) 金融機関借入	13
(4) 販売代金回収期間	14
(5) 仕入代金決済期間	14
5．経営上の問題点について	15

調 査 要 領

この報告は、岩手県内企業各社のご協力をもとに、下記の要領により景気動向の調査を行ったものです。

記

- 1．実施時期 2016年 12月下旬～2017年 1月上旬
- 2．調査対象期間 2016年 10月～12月期実績
 2017年 1月～ 3月期予測
- 3．調査の方法 郵送による無記名のアンケート方式（年間4回）
- 4．対象先 岩手県内企業 290社
- 5．回答数 156通（回答率 53.79 %）
 内訳 製造業 50社 建設業 32社 卸・小売業 74社
- 6．調査の主要項目 ・業況について
 ・設備投資の動向について
 ・資金繰りの状況について
 ・当面する経営上の問題点について

以 上

【本文用語説明】

「増加」～グラフ上の「増加」および「やや増加」

「減少」～グラフ上の「減少」および「やや減少」

DI（ディフュージョン・インデックス）～

「景気動向指数」のことで、各項目について「増加」（増加およびやや増加）と回答した企業の比率から「減少」（減少およびやや減少）と回答した企業の比率を減じた数値である。この値が「0」の場合は、「増加」と「減少」が等しいことを示し、プラスとなるほど「増加」が多く、マイナスになるほど「減少」が多いことを意味する。

（注）「上昇・低下」「楽になった・苦しくなった」「長くなった・短くなった」の回答についても同様に読み替える。

ただし、「販売代金回収期間」については、「短くなった」-「長くなった」で算出している。

概 況

2016年10～12月期の岩手県内企業の景況感D Iは、全体で 51.6 と前期（2016年7月～9月期） 50.3 と比較し、1.3ポイント低下した。

2017年1～3月期は、景況感は若干上昇するものの、個別項目を見ると、低下する項目が多い見通しとなっている。

D I（景気動向指数）推移

全業種ベース	10～12月期実績	1～3月期見通し
景況感	51.6	49.0
売上高・出荷高	21.1	22.5
収益	17.1	23.8
販売価格	0.1	3.9
仕入価格	12.2	16.1
資金繰り	5.2	14.2

・岩手県内企業「景況感D I」ワーストランキング

	調査回次	対象期間	景況感D I
1	第 153 回	09年1～3月	92.7
2	第 152 回	08年10～12月	91.3
3	第 124 回	01年10～12月	91.2
4	第 109 回	98年1～3月	90.6
5	第 111 回	98年7～9月	90.0

（1971（昭和46）年以降）

<岩手県の参考データ>

・有効求人倍率の推移

平成28年度

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1.28	1.28	1.32	1.32	1.24	1.28	1.30					

平成27年度

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1.20	1.23	1.21	1.27	1.27	1.21	1.22	1.22	1.20	1.23	1.24	1.25

・新設住宅着工戸数の推移

平成28年度

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
581	780	852	807	687	611	827	736				

平成27年

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
742	725	887	726	852	663	664	773	680	654	558	498

1. 県内景況感について

全体のD Iは、 51.6であった。

各業種別のD Iをみると、製造業が 48.0、建設業が 43.8、卸・小売業が 57.6と、前回調査時と比べて景況感は、製造業と建設業はやや上向き、卸・小売業は低下した。

1～3月期見通しでは、製造業が 40.9、建設業が 58.1、卸・小売業は 50.6と、製造業は上向き、建設業は大幅低下、卸・小売業は低下する予想となっている。

2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

D Iは、全体では 21.1であった。業種別では、製造業が 28.0、建設業が 15.5、卸・小売業が 18.9である。

(2) 仕入高または生産高

製造業の生産高はD Iが 26.0、卸・小売業の仕入高は 12.3となった。

(3) 在庫

製造業の製品在庫D Iは 20.0、卸・小売業の商品在庫は 15.7となった。

(4) 収益

D Iは、全体では 17.1であった。業種別では、製造業が 8.1、建設業が 25.0、卸・小売業が 19.7である。

(5) 販売価格・仕入価格

販売価格は 0.1、仕入価格は 12.2であった。

3. 設備投資の動向について

全体で見ると、設備投資を「実施した」企業は 24.7%となっている。

業種別では、製造業が 38.0%、建設業が 21.9%、卸・小売業が 16.7%である。

設備投資の目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」がトップとなり「生産・販売能力の増加」が2位、「省力化・合理化」が3位となった。

4. 資金繰り状況について

D Iは、全体では 5.2であった。業種別では、製造業が 4.0、建設業が 12.4、卸・小売業が 2.8である。

5. 経営上の問題点について

全業種合計では、「売上・受注不振」、「人手不足」、「収益不振」、「過当競争」が上位を占めている。

1. 県内景況感について

～ 実績は、製造業と建設業はやや上向き、卸・小売業は低下した ～

[10～12月期の実績] 県内の景況感（前年同期比）をみると、全業種では「良い」と答えた企業が3.9%（前期5.1%）、「悪い」が55.5%（同55.4%）で、DIは 51.6（同 50.3）と、前期に比べて1.3ポイント低下した。

業種別の景況感（DI）をみると、製造業が 48.0（同 49.1）、建設業が 43.8（同 45.5）、卸・小売業が 57.6（同 53.4）となっており、製造業と建設業はやや上向き、卸・小売業は低下した。

[1～3月期の見通し] 1～3月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「良くなる」とみる企業が4.6%、「悪くなる」が53.6%であることから、DIは 49.0となり、10～12月期実績と比較して、若干ながら上昇する見通しとなっている。

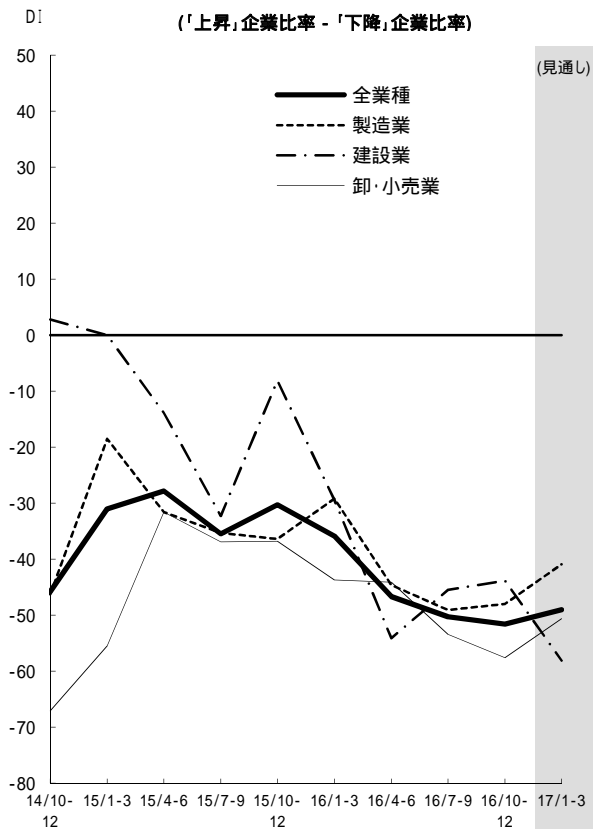
業種別にみると、製造業が 40.9、建設業が 58.1、卸・小売業が 50.6となっており、製造業は上向き、建設業は大幅低下、卸・小売業は低下する見通しである。

県内景況感(前年同期比)

		(%)					DI
	期	良い	やや良	不変	やや悪	悪い	
全業種	10～12月 (実績)	0.0	3.9	40.6	43.9	11.6	-51.6
	1～3月 (見通し)	0.0	4.6	41.8	44.4	9.2	-49.0
(製造業)	10～12月 (実績)	0.0	6.0	40.0	44.0	10.0	-48.0
	1～3月 (見通し)	0.0	6.1	46.9	38.8	8.2	-40.9
(建設業)	10～12月 (実績)	0.0	3.1	50.0	37.5	9.4	-43.8
	1～3月 (見通し)	0.0	0.0	41.9	45.2	12.9	-58.1
(卸・小売業)	10～12月 (実績)	0.0	2.7	37.0	46.6	13.7	-57.6
	1～3月 (見通し)	0.0	5.5	38.4	47.9	8.2	-50.6

県内景況感(前年同期比)

(「上昇」企業比率 - 「下降」企業比率)



2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

～ 実績は全業種が上昇 ～

[10～12月期の実績] 売上高・出荷高実績(前年同期比)をみると、全業種では「増加」と答えた企業が27.6%(前期24.5%)、「減少」が48.7%(同51.6%)となり、D Iは、21.1(同 27.1)と6.0ポイント上昇した。

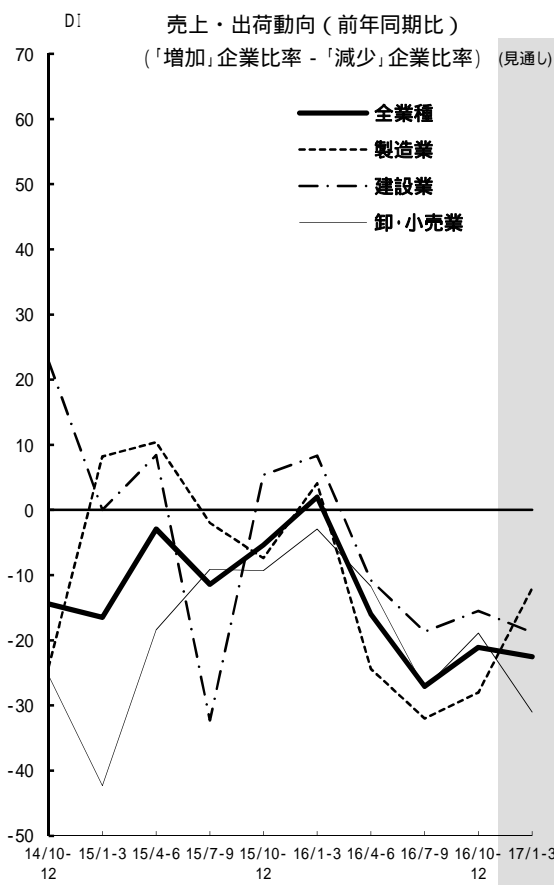
業種別にD Iをみると、製造業 28.0(前期 32.0)、建設業 15.5(同 18.7)、卸・小売業は 18.9(同 27.4)となっており、全業種上昇した。

[1～3月期の見通し] 1～3月期見通し(前年同期比)をみると、全業種では「増加」とみる企業が20.5%、「減少」が43.0%であることから、D Iは 22.5となり10～12月期実績と比較して、低下する見通しとなっている。

業種別にD Iをみると、製造業で 12.0、建設業で 18.8、卸・小売業で 31.0となっており製造業は上昇、建設業は横ばい、卸・小売業は低下する見通しである。

売上高または出荷高(前年同期比)

		D I					D I
		増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	10～12月(実績)	5.8	21.8	23.7	35.9	12.8	-21.1
	1～3月(見通し)	1.3	19.2	36.5	34.0	9.0	-22.5
(製造業)	10～12月(実績)	8.0	18.0	20.0	40.0	14.0	-28.0
	1～3月(見通し)	0.0	24.0	40.0	28.0	8.0	-12.0
(建設業)	10～12月(実績)	6.3	18.8	34.3	28.1	12.5	-15.5
	1～3月(見通し)	3.1	15.6	43.8	21.9	15.6	-18.8
(卸・小売業)	10～12月(実績)	4.1	25.7	21.5	36.5	12.2	-18.9
	1～3月(見通し)	1.4	17.6	31.0	43.2	6.8	-31.0



(2) 仕入高または生産高

～ 実績は製造業、卸・小売業とも上昇 ～

[10～12月期の実績] 仕入高・生産高実績（前年同期比）をみると、製造業（生産高）では「増加」と答えた企業が22.0%（前期18.0%）、「減少」が48.0%（同48.0%）でありDIは26.0（同30.0）と4.0ポイント上昇した。

卸・小売業（仕入高）では「増加」と答えた企業は31.5%（前期26.8%）、「減少」が48.3%（同49.3%）で、DIは12.3（同22.5）と10.2ポイント上昇した。

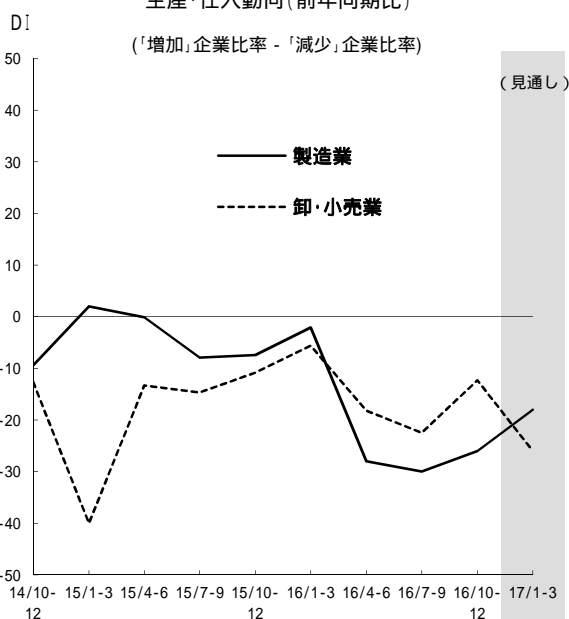
[1～3月期の見通し] 1～3月期見通し（前年同期比）をみると、製造業（生産高）については「増加」と答えた企業が18.0%、「減少」が36.0%であることから、DIは、18.0で、10～12月期実績と比較して、6.0ポイント上昇する見通しとなっている。

卸・小売業（仕入高）については、「増加」と答えた企業が19.2%、「減少」が45.2%であることから、DIは26.0で、10～12月期実績と比較し低下する見通しとなっている。

生産高または仕入高（前年同期比）

		（％）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
（製造業）	10～12月 （実績）	8.0	14.0	30.0	34.0	14.0	-26.0
	1～3月 （見通し）	0.0	18.0	46.0	30.0	6.0	-18.0
（卸・小売業）	10～12月 （実績）	5.5	26.0	24.7	34.2	9.6	-12.3
	1～3月 （見通し）	1.4	17.8	35.6	39.7	5.5	-26.0

生産・仕入動向（前年同期比）



(3) 在 庫

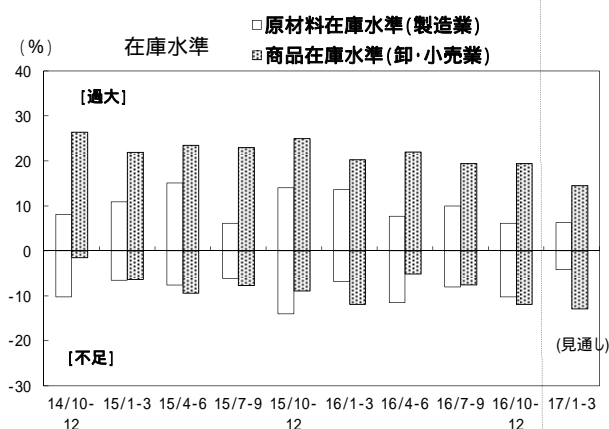
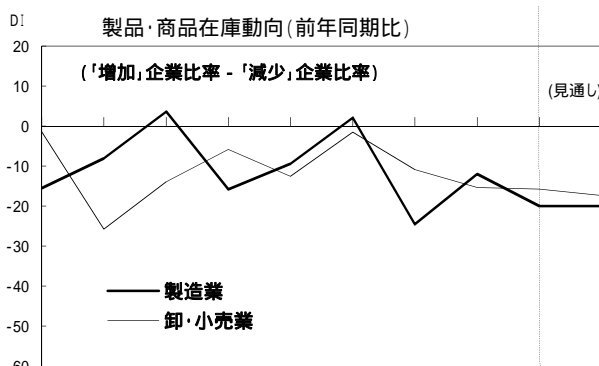
～ 在庫実績は製造業は減少、卸・小売業は横ばい ～

[10～12月期の実績] 在庫状況実績（前年同期比）をみると、製造業では、製品在庫が「増加」と答えた企業は16.0%（前期24.0%）、「減少」が36.0%（同36.0%）であることから、DIは 20.0（同 12.0）となった。また、製品在庫水準については、「過大」が8.0%（同15.7%）、「適正」が78.0%（同68.6%）、「不足」が14.0%（同15.7%）である。卸・小売業の商品在庫は、「増加」と答えた企業が10.0%（前期12.5%）、「減少」は25.7%（同27.8%）であることから、DIは 15.7（同 15.3）となった。また、商品の在庫水準については「過大」が19.4%（同19.4%）、「適正」が68.7%（同73.1%）、「不足」が11.9%（同7.5%）である。

[1～3月期の見通し] 1～3月期見通し（前年同期比）をみると、製造業の製品在庫は、「増加」とみる企業が8.0%、「減少」が28.0%で、DIは 20.0となっている。また、同じく製品在庫水準については「過大」とみる企業が6.5%、「適正」が89.2%、「不足」が4.3%である。卸・小売業の商品在庫については、「増加」とみる企業が8.7%、「減少」が26.0%であることから、DIは 17.3となっている。また、同じく商品の在庫水準については「過大」とみる企業が14.5%、「適正」が72.6%、「不足」が12.7%である。

製品・商品在庫(前年同期比)

		（%）					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
（製造業）	10～12月 （実績）	4.0	12.0	48.0	28.0	8.0	-20.0
	1～3月 （見通し）	0.0	8.0	64.0	26.0	2.0	-20.0
（卸・小売業）	10～12月 （実績）	0.0	10.0	64.3	20.0	5.7	-15.7
	1～3月 （見通し）	0.0	8.7	65.3	21.7	4.3	-17.3



(4) 収 益

～ 実績は全業種が上昇 ～

[10～12月期の実績] 収益動向実績（前年同期比）をみると、全業種では「増加」と答えた企業が26.3%（前期19.8%）、「減少」が43.4%（同43.6%）であり、DIは、17.1（同 23.8）となり、6.7ポイント上昇した。

業種別にDIをみると、製造業 8.1（前期 15.7）、建設業 25.0（同 27.2）、卸・小売業 19.7（同 27.7）となっており、全業種が上昇。

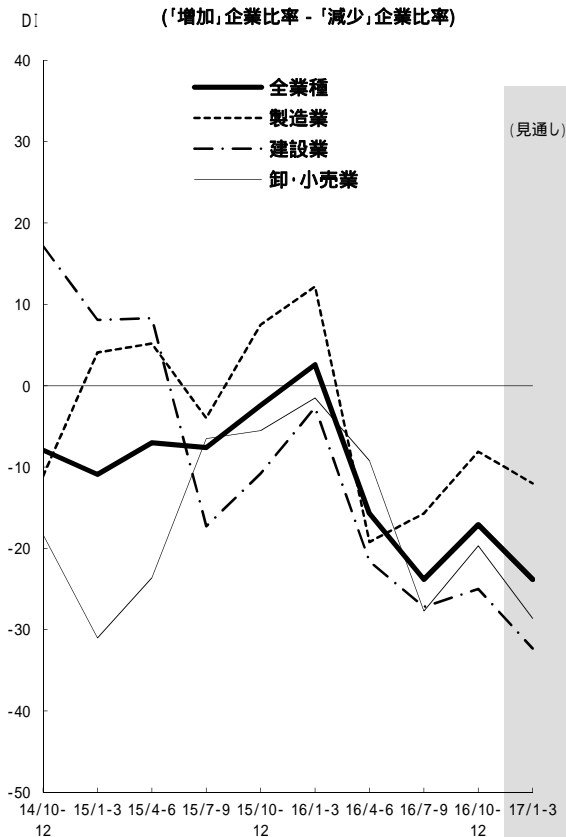
[1～3月期の見通し] 1～3月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「増加」とみる企業が21.2%、「減少」とみる企業も45.0%であることから、DIは 23.8で、10～12月期実績と比較して低下する見通しである。

業種別にDIをみると、製造業 12.0、建設業 32.3、卸・小売業 28.6で、10～12月期実績と比較して、製造業は上昇、建設業は横ばい、卸・小売業は低下する見通しである。

収 益(前年同期比)

		（％）					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	10～12月 (実績)	6.6	19.7	30.3	35.5	7.9	-17.1
	1～3月 (見通し)	1.3	19.9	33.8	35.1	9.9	-23.8
（製造業）	10～12月 (実績)	8.2	26.5	22.5	36.7	6.1	-8.1
	1～3月 (見通し)	2.0	26.0	32.0	34.0	6.0	-12.0
（建設業）	10～12月 (実績)	3.1	15.6	37.6	28.1	15.6	-25.0
	1～3月 (見通し)	3.2	9.7	41.9	25.8	19.4	-32.3
（卸・小売業）	10～12月 (実績)	7.0	16.9	32.5	38.0	5.6	-19.7
	1～3月 (見通し)	0.0	20.0	31.4	40.0	8.6	-28.6

収益動向(前年同期比)
(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)



(5) 販売価格・仕入価格

～ 実績は販売価格・仕入価格ともに上昇 ～

[10～12月期の実績] 販売価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が12.1%（前期9.7%）、「低下」が12.2%（同16.8%）であることから、DIは 0.1（同 7.1）と上昇した。

仕入価格（前年同期比）は、全業種では「上昇」と答えた企業が22.6%（前期20.5%）「低下」が10.9%（同10.3%）であることから、DIは12.2（同10.2）と上昇した。

[1～3月期の見通し] 1～3月期見通し（前年同期比）をみると、販売価格については「上昇」とみる企業が9.7%、「低下」とみる企業が13.6%であることから、DIは 3.9と低下する見通しとなっている。

仕入価格については、「上昇」とみる企業が25.1%、「低下」とみる企業が9.0%であることからDIは16.1と上昇する見通しとなっている。

販売価格(前年同期比)

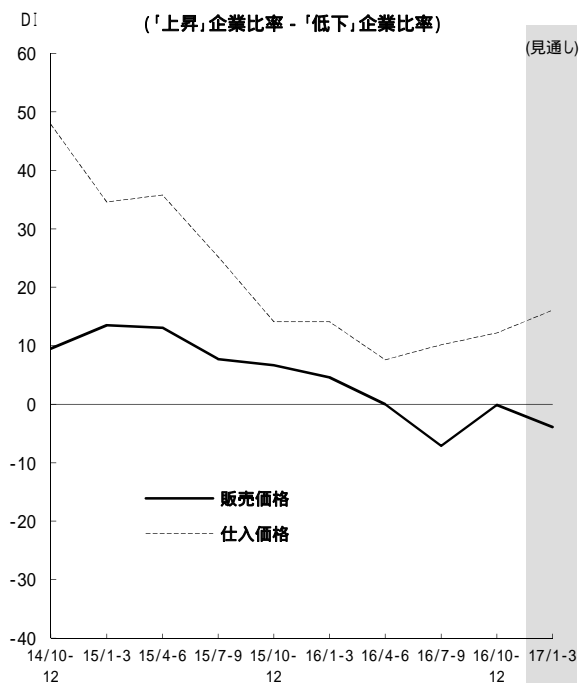
		（％）					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	10～12月 (実績)	0.6	11.5	75.7	9.6	2.6	-0.1
	1～3月 (見通し)	0.0	9.7	76.7	12.3	1.3	-3.9

仕入価格(前年同期比)

		（％）					DI
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	
全業種	10～12月 (実績)	1.3	21.8	66.0	9.0	1.9	12.2
	1～3月 (見通し)	0.6	24.5	65.9	7.1	1.9	16.1

価格動向(前年同期比)

(「上昇」企業比率 - 「低下」企業比率)



3.設備投資の動向について

(1) 設備投資の実施状況

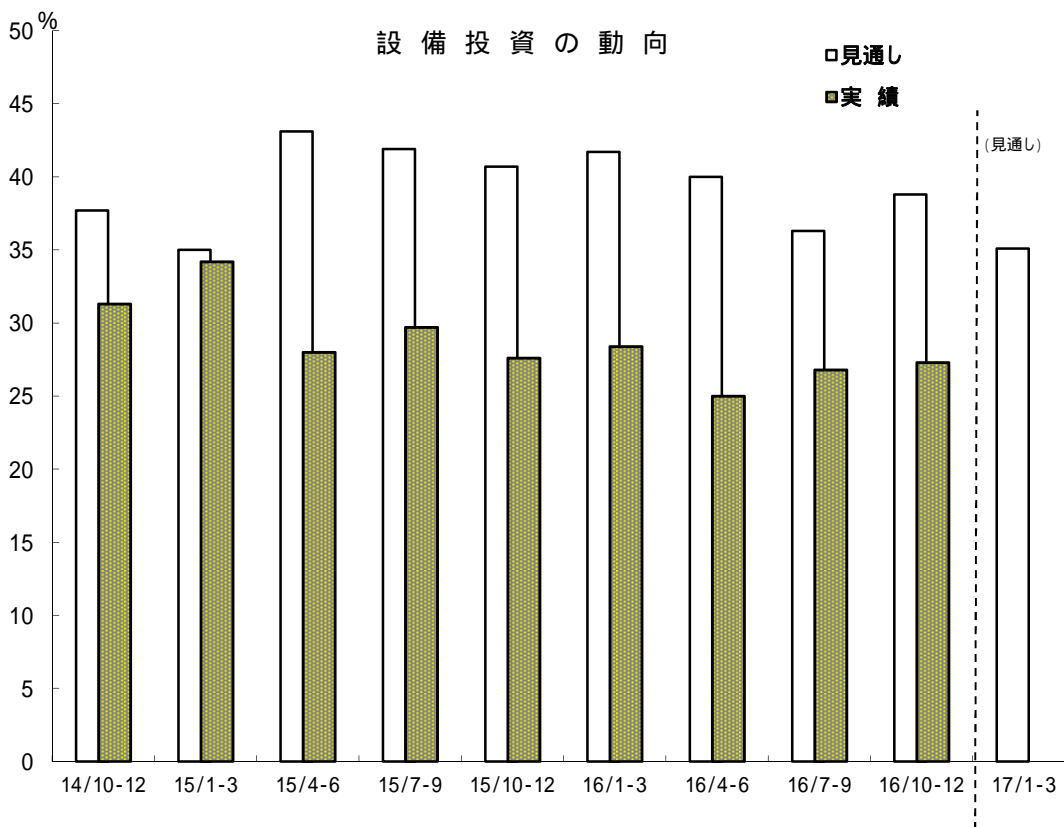
～ 実績は製造業は上昇、建設業は横ばい、卸・小売業は低下 ～

[10～12月期の実績] 設備投資の実施状況をみると、全業種では「実施した」および「計画を縮小して実施した」と答えた企業は27.3%（前期26.8%）と前期比上昇した。

これを業種別にみると、製造業38.0%（前期25.5%）、建設業25.0%（同25.1%）、卸・小売業20.9%（同28.5%）であり、製造業は上昇、建設業は横ばい、卸・小売業は低下した。

[1～3月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について、全業種では「具体的な計画がある」と答えた企業は全体で20.8%（前期22.4%）、「計画はあるが具体化していない」は14.3%（同16.4%）、「計画はない」は64.9%（同61.2%）であった。「計画あり」は合計35.1%となっている。

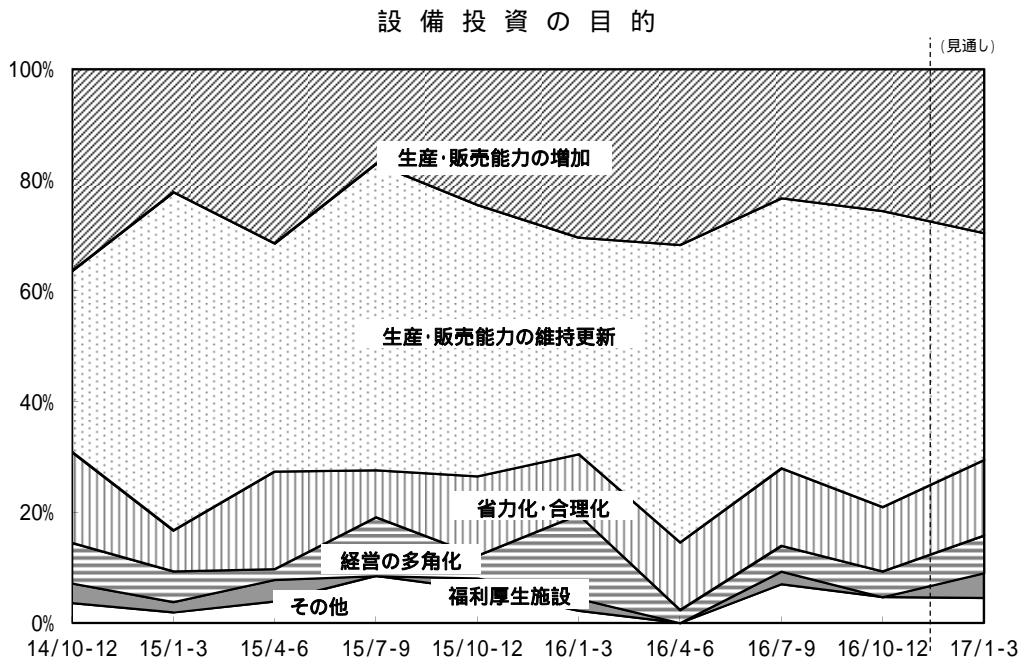
業種別にみると、「具体的な計画がある」および「計画はあるが具体化していない」と答えた企業は、製造業で48.0%（前期55.0%）、建設業で21.9%（同25.0%）、卸・小売業で31.9%（同35.2%）の見通しとなっている。



(2) 設備投資の目的

[10～12月期の実績] 今回の調査で「設備投資を実施した」と答えた企業(24.7%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が53.5%(前期48.8%)でトップとなり「生産・販売能力の増加」が25.6%(同23.3%)で2位となった。業種別で見ると、全業種が「生産・販売能力の維持更新」がトップであった。

[1～3月期の見通し] 今後3カ月の設備投資について、「計画あり」と答えた企業(35.1%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が40.9%でトップとなり、以下、「生産・販売能力の増加」27.5%、「省力化・合理化」が13.6%で3位となっている。



4. 資金繰り状況について

(1) 資金繰り状況

～ 実績は製造業と卸・小売業は上昇、見通しは全業種が低下予想 ～

[10～12月期の実績] 資金繰り状況(前期比)は、全業種では、「楽になった」とする企業が17.0%(前期10.3%)、「苦しくなった」が22.2%(同21.8%)であることから、DIは5.2(同11.5)と上昇した。

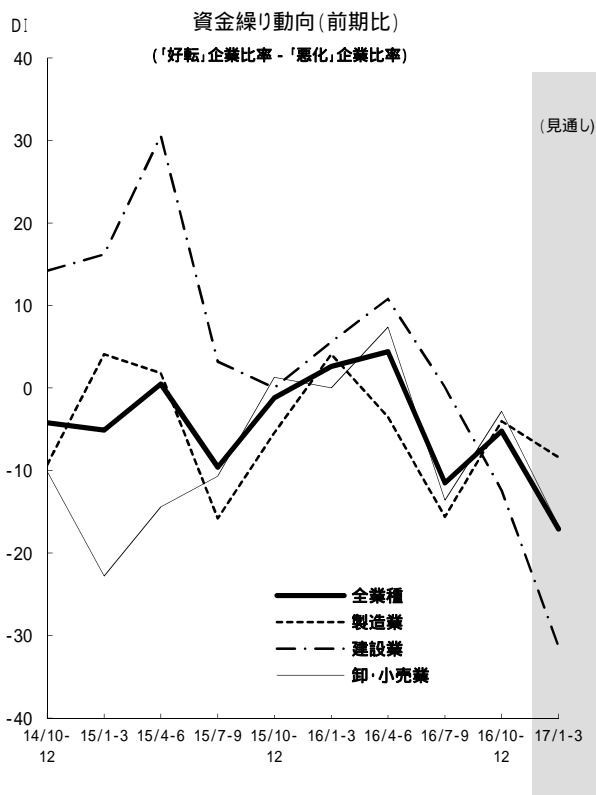
業種別にDIをみると、製造業が4.0(前期15.6)、建設業が12.4(同0.1)、卸・小売業は2.8(同13.6)と、製造業と卸・小売業は上昇、建設業は低下した。

[1～3月期の見通し] 1～3月期の見通し(当期比)をみると、全業種では「楽になる」とみる企業が9.3%、「苦しくなる」が26.4%で、DIは17.1となり、10～12月期実績と比較して、低下する見通しとなっている。

業種別にDIをみると、製造業8.4、建設業31.3、卸・小売業16.7となっており、全業種が低下する見通しとなっている。

資金繰り(前期比)

		(%)					DI
	期	楽	やや楽	不変	やや苦	苦	
全業種	10～12月 (実績)	3.3	13.7	60.8	18.3	3.9	-5.2
	1～3月 (見通し)	0.7	8.6	64.3	21.1	5.3	-17.1
(製造業)	10～12月 (実績)	4.1	18.4	51.0	22.4	4.1	-4.0
	1～3月 (見通し)	2.1	10.4	66.6	16.7	4.2	-8.4
(建設業)	10～12月 (実績)	0.0	6.3	75.0	15.6	3.1	-12.4
	1～3月 (見通し)	0.0	0.0	68.7	21.9	9.4	-31.3
(卸・小売業)	10～12月 (実績)	4.2	13.9	61.0	16.7	4.2	-2.8
	1～3月 (見通し)	0.0	11.1	61.1	23.6	4.2	-16.7



(2) 現金・預金

[10～12月期の実績] 現金・預金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が21.1%（前期15.4%）、「減少した」が30.8%（前期31.7%）であることからDIは 9.1（同 16.3）と上昇した。

[1～3月期の見通し] 1～3月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が12.5%、「減少する」が35.6%であることから、DIは 23.1と低下する見通しとなっている。

(3) 金融機関借入

[10～12月期の実績] 金融機関借入金（前期比）については、「増加した」と答えた企業が20.9%（前期16.2%）、「減少した」が32.7%（同34.4%）であることからDIは 11.8（同 18.2）と上昇した。

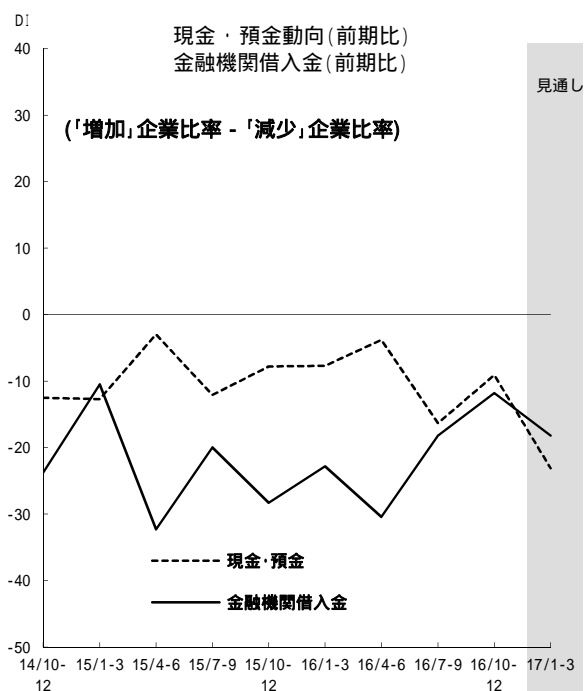
[1～3月期の見通し] 1～3月期の見通し（当期比）をみると、「増加する」とみる企業が12.7%、「減少する」が30.9%であることから、DIは 18.2と低下する見通しとなっている。

現金・預金(前期比)

		（%）					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	10～12月 (実績)	5.1	16.0	48.7	24.4	5.8	-9.1
	1～3月 (見通し)	2.0	10.5	51.9	25.7	9.9	-23.1

金融機関借入金(前期比)

		（%）					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	10～12月 (実績)	5.2	15.7	46.4	24.2	8.5	-11.8
	1～3月 (見通し)	1.3	11.4	56.4	27.5	3.4	-18.2



(4) 販売代金回収期間

[10～12月期の実績] 販売代金回収期間(前期比)については、「短くなった」とする企業が1.9%(前期1.3%)、「長くなった」が7.0%(同7.7%)であることから、DIは 5.1(同 6.4)となった。また91.1%(同91.0%)の企業は「変わらない」としている。

[1～3月期の見通し] 1～3月期の見通し(当期比)をみると、「短くなる」とみる企業が1.3%、「長くなる」が7.2%であることから、DIは 5.9となる。また、91.5%の企業は「変わらない」とみている。

(5) 仕入代金決済期間

[10～12月期の実績] 仕入代金決済期間(前期比)については「長くなった」とする企業が0.6%(前期0.0%)、「短くなった」が1.9%(同3.2%)であることから、DIは 1.3(前期 3.2)となった。また、97.5%(前期96.8%)の企業は「変わらない」としている。

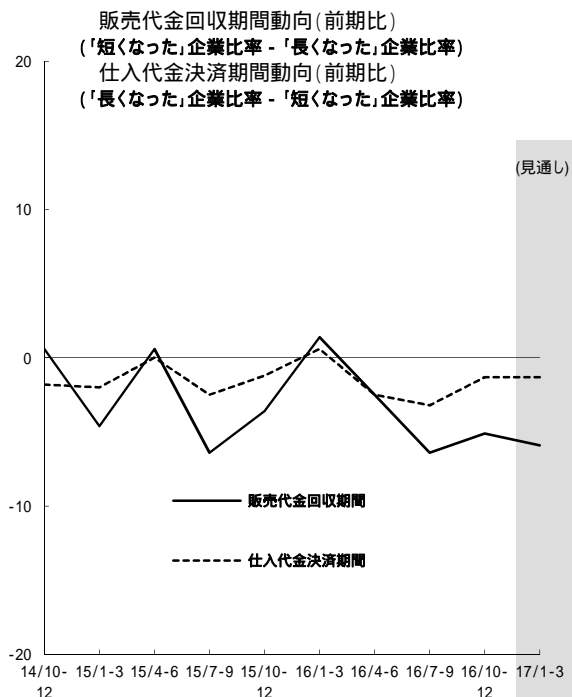
[1～3月期の見通し] 1～3月期の見通し(当期比)をみると、「長くなる」とみる企業が0.7%、「短くなる」が2.0%であることから、DIは 1.3となる。また、97.3%の企業は「変わらない」とみている。

販売代金回収期間(前期比)

		(%)					DI
	期	短く	やや短	不変	やや長	長く	
全業種	10～12月 (実績)	0.0	1.9	91.1	6.4	0.6	-5.1
	1～3月 (見通し)	0.0	1.3	91.5	5.2	2.0	-5.9

仕入代金決済期間(前期比)

		(%)					DI
	期	長く	やや長	不変	やや短	短く	
全業種	10～12月 (実績)	0.0	0.6	97.5	1.9	0.0	-1.3
	1～3月 (見通し)	0.0	0.7	97.3	2.0	0.0	-1.3



5. 経営上の問題点について

～ 経営上の問題は全業種「売上・受注不振」と「人手不足」～

10～12月期における経営上の問題点をみると、全業種では「売上・受注不振」26.4%（前期29.1%）、「人手不足」18.0%（前期19.5%）、「収益不振」11.3%（同12.1%）、「過当競争」11.3%（前回9.6%）となっている。

業種別に上位3項目をみると、製造業では「売上・受注不振」が24.4%で1位、「人手不足」が17.4%で2位、「収益不振」と「原材料・仕入価格高」が10.5%と3位となった。建設業では「売上・受注不振」が29.3%で1位となり、「過当競争」が24.1%で2位、「人手不足」が19.0%で3位となった。

卸・小売業では「売上・受注不振」が26.7%で1位、「人手不足」が17.8%で2位、「収益不振」が13.3%で3位となっている

経営上の問題点

(2項目以内複数回答可)

